

整理番号 1-(1)-1

モニタリング項目評価シート (評価対象年度: ○○年度)

モニタリング視点	1. 遺産価値を表す固有種・絶滅危惧種が維持されていること			
カテゴリー	(1) 種の保全状況			
指標	1. アマミノクロウサギの生息状況			
実施主体	環境省沖縄奄美自然環境事務所			
調査項目	ルートセンサスに基づく糞粒数			
評価周期	1年			
調査対象地域	<input checked="" type="checkbox"/> 奄美大島	<input checked="" type="checkbox"/> 徳之島	<input type="checkbox"/> 沖縄島北部	<input type="checkbox"/> 西表島
調査の目的	奄美大島において約 20 本、徳之島において約 10 本のルートを設定し、糞粒数を調査することで、個体数のトレンドを把握する。			
評価結果	●定性的評価			
	奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島
	A	A		
	●定量的評価			
	定量的評価基準：なし			
	奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島
評価結果総論				
<p>奄美大島では、2020 年度は 21 ルートで調査を実施し、糞粒数は前年と比較して全てのエリアで増加していた(エリアとは奄美大島を9つに分割したもので、各エリアに含まれるルートの糞粒数の平均値を算出)。経年変化でみると、ほとんど糞が確認できない奄美市名瀬と、調査開始当初から一定程度糞が確認できていた宇検村を除き、増加傾向になっている。増加要因として、奄美大島マングース防除事業の成果が挙げられ、本種の生息は今後も安定的に推移すると考えられるため、定性的評価を「A」と評価した。本種を指標とする森林生態系のさらなる安定のためには、ネコによる捕食や交通事故等の悪影響を低減するための取組を引き続き推進する必要がある。</p> <p>徳之島では、2020 年度は 20 ルートで調査を実施し、糞粒数は前年と比較して減少した。長期的には、北部は緩やかな増加傾向を維持している一方で、南部は少ないまま横ばいの状態である。北部における主たる増加要因は不明であるが、ネコの防除・管理等に関する取組の効果が要因の一つとして考えられる。以上の理由により定性的評価を「A」と評価した。本種を指標とする森林生態系のさらなる安定のためには、イヌ・ネコによる捕食や交通事故等の悪影響を低減するための取組を引き続き推進する必要がある。</p>				

コメントの追加 [A1]: 整理番号：モニタリング計画の別表より、「モニタリングの視点番号」-「カテゴリー」-「指標番号」「調査項目番号」を記載。

コメントの追加 [A2]: 評価対象にした年度または年を記載。
※観光データなどは、年ごとのデータを使用しているため、「評価対象年」とする。

コメントの追加 [A3]: 「モニタリング視点」~「調査の目的」の記入は、モニタリング指標一覧に沿って、記載

コメントの追加 [A4]: 実態に即して実施主体を記載する。

コメントの追加 [A5]: 島ごとに「S」から「C」の4段階評価を記載。
評価対象地域に該当するが、現時点で評価が困難な場合には「未」(未評価)と記載。なお、評価対象地域に該当しない地域、様々な施策を検討する際の基礎的な情報を収集するためのモニタリングとして設定した地域は「斜線」とする。
評価は、世界遺産推薦時(2019年)をベースラインとして評価する。

コメントの追加 [A6]: 定量的基準が設けられた場合には、その定量的評価基準を記入し、その基準に基づき、島ごとの評価を記載。

コメントの追加 [A7]: 島ごとに、指標の状況を踏まえた、定性的評価、定量的評価の内容や「評価」の根拠となるポイントを、まとめて記載する。

コメントの追加 [A8]: 対象地域ごとに「○○の理由により定性的評価を「A」と評価した。」など、評価根拠と評価が明確にわかるように記載。また、評価が困難な場合はその根拠も記載する。

調査結果の概要

各年における各調査ルート（奄美大島：最大 36 ルート、徳之島：最大 20 ルート）の糞粒数頻度を、エリア（奄美大島：9 エリア、徳之島：2 エリア）ごとに平均して比較。2020 年度は奄美大島 21 ルート、徳之島 20 ルートで実施。なお、1993～1994 年、2000～2003 年のデータは、森林総合研究所の調査結果（Sugimura & Yamada 2004）を使用。

奄美大島では、2020 年はすべてのエリアにおいて 2019 年より増加。糞粒数頻度はエリア平均でみると、E（住用中部）が突出して多い。また、全体の傾向として、B の名瀬南西部、G の宇検瀬戸内を除いては調査開始時から増加傾向。

徳之島においては、全体の傾向として、北部は緩やかな増加傾向にある一方で、南部では北部と比較して大きな増減が見られない。

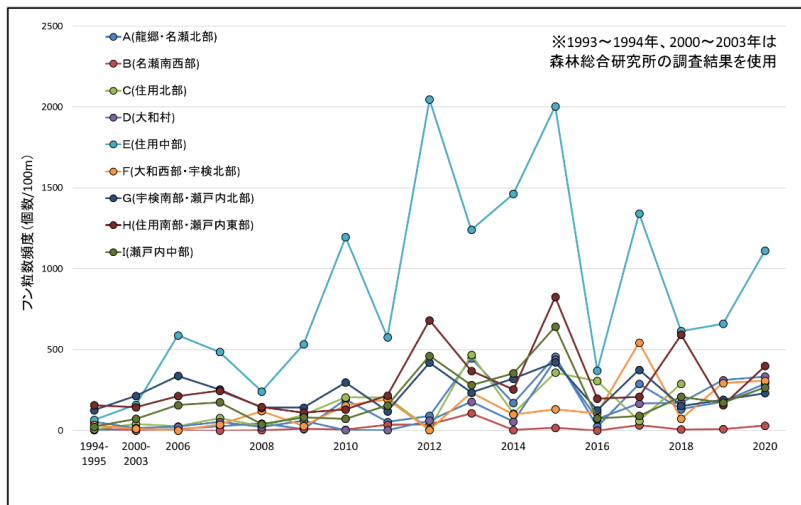


図 1. 奄美大島における糞粒数頻度の経年変化

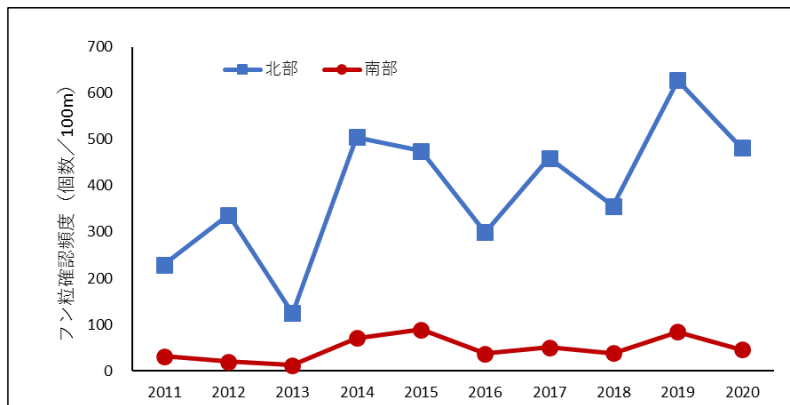


図 2. 徳之島における糞粒数頻度の経年変化

その他
(今後の方針、検討事項等)

・糞粒調査結果、及び、センサーカメラ撮影頻度と組み合わせた状態空間モデルによるクロウサギの個体数推定も試算されているが、推定値は大きくばらついて十分な精度が得られていない。今後は推定精度の向上を図る。
・●●検討会では、来年度、■■地域の調査ルート及び、調査地点数の追加検討を行っている。

(評価確定年月日：●年●月●日)

コメントの追加 [A9]: 1~3 ページ程度で、調査結果の概要を記載。必要に応じて、評価に関わる数値情報(図表)を添付する。

コメントの追加 [A10]: 図表には、図表番号及び図表タイトルを記載し、本文中にも図表番号を入れる。図と表は分けて番号をつける。
凡例や図表内の文字のサイズ、色は見やすいよう留意する。

コメントの追加 [A11]: 当該項目のモニタリングの今後の進め方等で記載すべきこと、今後の課題や検討事項、特記事項を記載する。

(例：既存の事業・調査計画・検討会等において、調査地点・ルートの追加、調査方法の修正・改良の検討を行う等)

コメントの追加 [A12]: 評価確定年月日を記載